

# SUFD Report 2023

令和5(2023)年度 仙台大学FD年次活動報告



## 報 告 REPORT

本学では、教員を中心に FD 活動を実施している。主な活動は、(1) 学内 FD 研修会の企画運営実施、(2) 学修状況調査の概要報告、(3) 授業改善アンケートの実施、(4) シラバス・ルーブリック作成の支援、(5) FD 活動の広報・周知である。

### (1) 学内 FD 研修会の企画運営実施

本年度は、次の3つの研修会を実施した。

#### ① 新任教員 FD セミナー

4月4日(月)に今年度着任した新任教員を対象としたスタートアップ支援FDセミナーを開催した。本学のカリキュラムをはじめとする教務に関する事項とFD活動等について説明をした。

#### ② 授業改善 FD 研修会

9月19日(火)に情報・データサイエンス教育運営チームと共催で研修会を開催した。講義型、実習型に分けて2022年度の授業評価アン

ケートが高評価の先生に講師を依頼し、実際の教育事例などの説明を行い、情報・データサイエンス教育運営チームからは、ICTツールの活用とその留意点について、説明を行った。

#### ③ 授業づくりのためのFD研修会

本学では、学生と教員が参加する研修会を毎年開催している。今年度は、「学生の個人情報端末を利用した学修への効果と課題とは」をテーマに掲げ、12月12日(火)に研修会を開催した。対面で教員と学生が集まり、教員と学生を交えたグループをつくり、ICTツールを活用し、ディスカッションを行った。

## (2) 学修状況調査の概要報告

本学では6月7日(水)から7月12日(水)にかけて、学生に対する支援と指導のために日常の学生の学修状況について、基礎的な資料を得ることを目的とした学修状況調査を全学生にWebアンケートにて実施した。この調査結果については、回答率が約73%となり、9月19日(火)に開催した教授会で報告を行った。この調査結果を通して、学年、学科、希望する進路、スポーツ活動の有無等と学修状況との関係が示された。

## (3) 授業改善アンケートの実施

原則としてすべての科目を対象に「FDネットワーク“つばさ”」のフォーマットで「授業改善アンケート」を受講学生全員に実施した。個々の授業の改善を目指し、授業内容・教授方法に対する学生の反応を探ることが、本アンケートの大きな狙いの一つである。

結果は、本学独自の「授業改善アンケート活用フォーム」を用いて、集計結果を基に各教員が担当科目と全体平均などとの比較が出来るようになってきている。

実施期間：年2回

(1) 令和5年7月10日(月)～令和5年7月27日(木)

(2) 令和5年1月18日(木)～令和6年1月31日(水)

## (4) シラバス・ルーブリック作成の支援

教育改善企画運営委員会では毎年次年度の様式や記載内容の項目について検討し、統一様式により、原則すべての開講科目について作成を依頼している。学生にとってよりわかりやすいシラバス・ルーブリックとするために、今年度も教員に配布しているシラバス・ルーブリック作成要領(「シラバス・ルーブリック作成の手引き」)の見直しを行った。なお、シラバス・ルーブリックは本学ホームページにも掲載し、保護者等も閲覧できるようにしている。

## (5) FD活動の広報・周知

### ① FD 広報冊子の作成

本学では、FD 広報冊子(SUFD Report)を年に1度発行している。この冊子の発行の目的は、本学の教育改善企画運営委員会が実施しているFD活動の内容を、学内外に周知することである。

### ②学外のFD研修会情報の提供

学外において開催されているFD研修会についての情報提供を行っている。メールやポスター等で届いた開催案内を教員向けに整理し、全教員を対象にメールで周知をしている。今年度については、1名の委員が「第25回基盤教育ワークショップ」にオンラインにて参加した。



**報 告 REPORT**

**2023 年度 新任教員のための FD セミナー**



**開催プログラム**

日 時：令和5年4月4日（火）15:00～16:30  
 会 場：A棟2階 大会議室

時刻	内容												
15:00	開会挨拶												
15:05	教務について ① 履修登録と成績評価 ② 教室での機材の利用 ③ 学生の出欠管理 ④ 学生への連絡・告知 ⑤ 休講 ⑥ オフィスアワー ⑦ その他												
15:20	カリキュラムについて ① カリキュラムポリシー ② カリキュラム全体の編成 ③ 担任制												
15:35	教養教育について ① 体育系大学の基礎教養 ② 仙台大学の専門教養演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ ③ 学習基礎教養演習												
15:50	FD 活動について ① FD 活動とは ② シラバス（授業概要） ③ 授業改善アンケート ④ FD 研修会												
16:05	倫理審査について ① 研究倫理の必要性 ② 本学における倫理審査の流れ												
16:20	フリートーク（質問疑問など）												
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>グループ</th> <th>新任教員</th> <th>FD 委員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①</td> <td>清野 正哉、山口 恭正</td> <td>*金 一坤、田口 直樹</td> </tr> <tr> <td>②</td> <td>小石 俊聡</td> <td>*佐藤 周平、白幡 真紀</td> </tr> <tr> <td>③</td> <td>遠藤 教昭、齋藤 長行</td> <td>*林 直樹、後藤 満枝</td> </tr> </tbody> </table>	グループ	新任教員	FD 委員	①	清野 正哉、山口 恭正	*金 一坤、田口 直樹	②	小石 俊聡	*佐藤 周平、白幡 真紀	③	遠藤 教昭、齋藤 長行	*林 直樹、後藤 満枝
グループ	新任教員	FD 委員											
①	清野 正哉、山口 恭正	*金 一坤、田口 直樹											
②	小石 俊聡	*佐藤 周平、白幡 真紀											
③	遠藤 教昭、齋藤 長行	*林 直樹、後藤 満枝											
16:45	* コーディネーター役 閉会挨拶												

# 報告 REPORT

## 令和5年度 授業改善 FD 研修会について

目的：授業評価の高い教員の授業の実践例を聞くこと、ICTスキルの向上及びオンライン授業の高度化に向けた取組み事例を聞くこと等によって、今後の授業の参考とする。

主催：教育改善企画運営委員会

共催：情報・データサイエンス教育運営チーム

日時：令和5年9月19日（火）教授会終了後

対象者：仙台大学教員

開催方法：オンライン（Meet）による開催

内容：

第一部：高評価授業担当者による教育事例紹介（各15分×2名）

<講師>

講義型 岩田准教授

実習型 片岡講師

第二部：典型的なICT活用事例とその留意点（15分）

<講師>

川戸講師

その他

「令和5年度（前期）授業毎の点検」における分析結果について

・FD委員会の年度目標にある「ICTスキルの向上及びオンライン授業の高度化」をテーマとした研修会を開催した。2022年度の授業評価アンケートの高評価授業担当者に講師を依頼し、講義と実技のそれぞれの形態についての教育事例紹介を実施した。また、情報・データサイエンス教育運営チームからは、ICTツールの活用とその留意点について、説明を行った。



「教育事例紹介」 岩田純

**授業改善FD研修会**  
 教育事例紹介(講義型)  
 岩田 純

**4) たんぱく質必要量**

必要量	たんぱく質	たんぱく質量	
(体重60kgの場合)	一般成人推奨量 (日本人の食事摂取基準2020)	0.9g/日	(60×0.9=) <b>54g/日</b>
	持久系種目	1.5g/日	1.6gでの算出例 (60×1.6=)
	球技系種目	1.75g/日	
	瞬発系種目	2.0g/日	<b>96g/日</b>
摂取量	令和元年度 国民健康調査 (20~29歳)	(80.1÷67.4=) <b>1.2g/日</b> (61.1÷53.6=) <b>1.1g/日</b>	男性80.1g (67.4kg) 女性61.1g (53.6kg)

**スポーツ栄養学**

受講者: スポーツ栄養学科2年  
 履修者: 約80名(卒業必修科目)  
 実施方法: 教室にてスライドを使用して講義を行う  
 配布資料: Googleクラスルームより事前に配信

食品	重量	たんぱく質	たんぱく質量
卵	100g	12.3	50g (1個) 6.2
さんま	100g	17.6	100g (1尾) 17.6
牛ステーキ	100g	17.4	150g (1人前) 26.1
納豆	100g	16.5	50g (1パック) 8.3
ごはん	100g	2.5	150g (茶碗1杯) 3.8
プロテイン (ザバス)	100g	92.4	21g (1食分) 19.4

**成績評価**

- 本試験 50%  
15回目授業で実施
- 小テスト10点×3回 30%  
4週に1回実施
- 課題3つ 20%

	エネルギー	たんぱく質
ごはん300g	504	7.5
ラーメン1人分	445	10.1
<b>合計</b>	<b>949</b>	<b>17.6</b>



**工夫していること**

- 配布資料は穴埋め形式にしてノートする時間が長くないようにする。
- 授業が一方向的にならないように、時々学生に問題を出して回答させる。出題する問題が無い場合には質問や感想を聞く。(こちらから指名)
- 毎回の授業終盤に「確認のテスト」を行い、「小テスト」はその内容から出題する。
- スライドは写真や図表、イラストなどを使って、具体例を紹介する。
- 毎回の授業終了時にアンケートを行い、質問や要望などをもらう。

**【主菜】**  
 たことらのピリ辛炒め  
 たんぱく質18.4g


**1食あたり**  
 たんぱく質37.7g



**授業の流れ**

- 出席確認(Googleフォーム)  
⇒前週の「確認のテスト」と同じ問題を再度実施する
- 前回の復習
- 本日の授業
- 確認のテスト(Googleフォーム)  
その日の授業内容に関する問題(5分程度で出来るもの)  
授業のアンケートをつけて感想や質問を書いてもらう
- 質問への回答  
授業終了まで時間が残っていればその場で回答する  
(時間が無い場合は翌週に回答)

料理区分	料理名	たんぱく質
主食	かぼちゃのバター風味ライス	10.3g
汁もの	さつまいと油揚げの味噌汁	3.3g
主菜	たことらのピリ辛炒め	18.4g
副菜	ごぼうのサワーサラダ	1.8g
デザート	バナナアイスヨーグルト	3.9g
<b>合計</b>		<b>37.7g</b>



課題 3つ

1. エネルギー消費量の算出  
24時間分の生活活動記録よりMetsを用いてエネルギー消費量を算出する。
2. 推定エネルギー必要量の算出  
各自の体重や体脂肪率など身体組成より1日の推定エネルギー必要量を算出する。
3. 食事バランスの分析  
1日分の食事を写真撮影し、その内容を食事バランスガイドで分析して評価する。

授業改善アンケート(改善すべき点)

- 配布資料を早めに配信してほしい  
⇒3日前までの配信を心がける

課題の実例紹介

1. エネルギー消費量の算出  
24時間分の生活活動記録よりMetsを用いてエネルギー消費量を算出する。
- Googleクラスルームを利用すると管理しやすく、課題の回収と返却が便利
  - 編集履歴の機能を利用すると添削がしやすい
- ⇒この後、課題のフォーマット(Googleスプレッドシート)を画面共有します

その他(初回授業に実施していること)

1. 最初に自己紹介を行う
2. スポーツ栄養学と他の授業との関連について説明する
3. 各授業回の目的と流れを説明する

課題について

- 各自のデータを用いて実施する  
○インターネットや他人のレポートをコピーできない。  
△添削に手間がかかる
- GoogleスプレッドシートもしくはGoogleドキュメントでフォーマットを作成し、コピーしてGoogleクラスルームより配信する  
課題の回収と返却がいつでも出来るため便利
- 授業内で説明した内容のうち、筆記試験のみでは評価が難しいものを課題とした  
学生の理解度を確認できる


授業時のスライド	生化学	運動生理学	栄養学
【導入】	1	2	3
【基礎】	4	5	6
【実践】	7	8	9
【実践】	10	11	12
【実践】	13	14	15

テーマ  
1 トレーニングと栄養・休養の関係  
2 運動時のエネルギー供給(糖質・脂質)  
3 からだづくり(たんぱく質)  
4 運動とビタミン・ミネラルの摂取(貧血・喫煙)  
5 スポーツ栄養マネジメント、身体組成の測定  
6 エネルギー消費量  
7 推定エネルギー算出、食事調査  
8 食事バランスガイドの活用  
9 トレーニング期の食事  
10 体重調整と食事  
11 試合期の食事  
12 運動時の体温調節と水分補給  
13 競技力向上・健康維持のためのセルフマネジメント

授業改善アンケート(良かった点)

1. 毎回、確認のテストがあったので知識が定着した
2. 最初に前回の復習があったので理解しやすかった
3. 過去の事例や研究結果、経験などをもとに具体的に説明があった
4. 前の授業の質問などに細かく答えてくれた
5. 先生が一方向的に話すのではなく、私達に質問や回答をする場面を作ってくれた

「実習型」片岡悠妃



**令和5年度  
授業改善FD研修会**

**授業の事例紹介**

【実習型】片岡 悠妃

▷授業内容

授業回数	授業内容・テーマ	
第1回	抽選・オリエンテーション	ボールコントロール ラリーの継続
第2回	ネットの貼り方理解・習得、ボールコントロール	
第3回	パススキル練習、ラリーの継続	
第4回	ラリーの継続	
第5回	ラリーの継続	
第6回	ヒットスキル練習（スパイク、サーブ）	ラリーの意図的中断 （守りからの攻め）
第7回	【オンデマンド】スキルのポイント解説	
第8回	ラリーの意図的中断（三段攻撃の組み立て）、ローテーションの理解	
第9回	ゲームの中で連続などの有効な攻撃を組み立てる（スロットとテンポの解説）	
第10回	スパイクレシーブからの展開、フォーメーションを理解する	
第11回	レセプションからの展開、フォーメーションを理解する	
第12回	総当たり戦	
第13回	レポート作成	
第14回	実技テスト＆ゲーム	
第15回	実技テスト＆ゲーム	
第16回	再テスト実施、予備日	

▷授業概要

【科目】専門基礎科目 実技 バレーボール

【開講時期】前期・後期 木曜3コマ、4コマ（計：約250名）

【授業形態】対面実技（第5体育館）+オンデマンド1回

【対象者】全学科1年生、過年度

【履修人数】56人～64人（コート4面、1チーム8名×8チーム=最大64名程度）  
※ネット型（テニス・卓球・バドミントン）で人数を調整  
※バレーは毎年希望者の中から抽選



▷授業展開

- ◇ネット張り（3コマ学生）
  - ◇集合・点呼
  - ◇目標、今日のテーマの確認、グルーピング 約15分
  - ◇体操
  - ◇5分間自由活動
  - ◇今日のテーマに応じた技術・戦術練習やチーム練習
- ◇バス練習（2人ドリル、3人ドリル）
  - ◇3対3、4対4
  - ◇各種スキル練習（サーブ、サーブレシーブ、コンビ）
- ◇ゲーム 約30分～45分
  - ◇まとめ
  - ◇片付け（4コマ学生） 約5分

▷授業の到達目標

**仙台大学体育学部**  
【ディプロマポリシー】  
体育学の基礎的な分野、すなわち、体育・スポーツ及び健康分野において専門的な知見・技能を有して活躍できる人材を養成すること

【カリキュラムポリシー】  
専門基礎科目：体育学の基礎と各学科の専門分野の基礎となる  
発展科目、応用科目：それらの応用力を習得  
体系的に専門的な知識や技能を習得する

**バレーボール（専門基礎科目）**  
将来、体育教員になってバレーボールの授業をするために必要な知識・スキルの提供

(運動技能領域:できる) : 基礎技能を習得し、デモンストレーションができるようになる。  
(認知領域:わかる) : バレーボールの戦術・構造を理解する。  
(情意領域、社会行動領域:かかわる) : 技術を駆使し仲間と協力しながらゲームを楽しむ方法を習得する。

▷工夫していること

- ◎授業の到達目標を毎回確認すること（できる・わかる・かかわる）  
・何を学ぶ時間が明確に意識して取り組ませる。
- ◎授業の最初に、5分間自由にボール使ってアップする時間を確保する  
・去年のFD研修会の内容を参考に取り入れた。  
・大人数の学生に対し、その場の雰囲気や声かけがしつかり通るようになるための工夫として、取り入れてみたら良かった。  
（まずは自由にさせて学生の意欲を誘う。実際に効果がある・・・気がする）  
→学生の様子：これまでに実施したドリルを友達と遊びながら実施していたり、テストに向けてペアで練習している一歩進んだ、女子のクラス（女4）は、楽しんでボールを触らさず「おしゃべり」になるので、未実施
- ◎毎回の授業後に、形成的授業評価アンケートを行い、学生から授業の評価をもらい授業運営に役立てている  
・授業や学習課題が対象者にとって効果的か判断し、その地点での実技把握や授業の軌道修正に用いる
- ◎目標の構造を、専門外の学生が理解できるように（できる・わかる・かかわる、の、わかる部分）、実施する運動課題の設定や声掛けを工夫している

▷到達目標に対する評価方法


(運動技能領域:できる) : 基礎技能を習得し、デモンストレーションができるようになる。  
(認知領域:わかる) : バレーボールの戦術・構造を理解する。  
(情意領域、社会行動領域:かかわる) : 技術を駆使し仲間と協力しながらゲームを楽しむ方法を習得する。

↓

- ・実技テスト：25%  
観点⇒オーバーハンドパスができる、アンダーハンドパスができる、サーブをコントロールして打てる方法⇒直上パス+前方パス（各5回）、サーブ（1人3本）
- ・レポート課題：25%  
内容⇒バレーボールの特性を踏まえた上で、ラリーを継続させるためのポイントを述べなさい（800字程度）
- ・出席＆形成的授業評価アンケート内項目：50%  
観点⇒「クラスメイトに声をかけましたか」「声をかけられましたか」の回答内容を参考にする

▷運動課題（実践例）

今日のテーマ：ラリーを継続しよう



隣と向き合っていない状態からボールを繋げよう

**運動課題①：3対3（自チームで6回連続で連続）ラリーの回数を数える**  
設定：コート（縦9m×横4.5m）※正式なコートの広さは9m×9m  
ルール：持ったらダメ（2秒以内に放せば見てなかったことにする！）  
連続で触ったらダメ

問い：どうやったらスムーズにボールを繋げるか？

**運動課題②：3対3（3回で相手コートに連続）7点先取**  
設定：コート（縦9m×横4.5m）※正式なコートの広さは9m×9m  
ルール：持ったらダメ（2秒以内に放せば見てなかったことにする！）  
1人1回しか触れない

○ボールに触りに行き始める（女子）、ボールが繋がりはじめる！  
○ボールが繋がりはじめる、自然とラリーを意図的に切ろうとし始める（男子）  
（総練習所の工夫の出現、3段攻撃の出現）

今日のまとめ：あらかじめ触る順番や役割を決めておくと、ラリーが継続しやすい

▷工夫していること

○授業の到達目標を毎回確認すること（できる・わかる・かかわる）

・何を学ぶ時間が明確に意識して取り結ませる。

○授業の最初に、5分間自由にボール使ってアップする時間を確保する

・去年のFD研修会の内容を参考に取入れた。

・大人数の学生に対し、その後の教員の指示がしっかり通るようになるための工夫として、取り入れてみたら良かった。  
（まずは自由にさせて学生の歌を聴かず、実際に効果がある・・・気がする）

→学生の様子：これまでに実施したドリルを友達と遊びながら実施していたり、テストに向けてベアで練習している

→冬場の、女子のクラス（木4）は、寒い種いして、あまりボールを触らず「おしゃべり」になるので、未実施

○毎回の授業後に、形成的評価アンケートを行い、学生から授業の評価をもらい授業運営に役立てている

・授業や学習課題が対象者にとって効果的か判断し、その地点での実状把握や授業の軌道修正に用いる

○種目の構造を、専門外の学生が理解できるように（できる・わかる・かかわる、の、わかる部分）、実施する運動課題の設定や声掛けを工夫している

▷最後に

○今後も、学内や他大学の先生と積極的に情報交換をし、授業を積極的にアップデートしていきたい。

同じネット型の先生と話していれば、種目類型の特性が見えてきたり、種目の特性が大きく異なる先生と話していれば、その競技の特徴や魅力がわかってくる。

授業で、どこをどう取り上げていくか、運動課題を設定する際の参考になったり、自分では気づかない視点に気付くことができる。



ご静聴ありがとうございました。





「現代武道学科」川戸湧也

令和5年度 授業改善FD研修会  
**典型的なICT活用事例とその留意点**  
 現代武道学科 川戸湧也

**典型例とその留意点**  
 撮影・フィードバックの何が課題か (\*私見を多く含みます)  
**見方を変えると・・・2つの課題が指摘できるのではないかな**  
 ① 運動・スポーツは目にみえるものが全てか？  
 ② 動画を撮影することは本当に教育に貢献するのかな？  
 大前提として・・・  
 「タブレットを使って、ヘアの演技を撮影してあげて～」  
 「終わったら映像を見返してね～」(以降、生徒を放置)  
 → 目的と手段が入れ替わる例は、本件を問わず散見される  
 ICTの活用が手段ではなく目的となってしまう場合・・・**論外**


**ICTの活用**  
 コロナ以前 (2019年)  
**GIGAスクール構想の開始**  
 児童・生徒1人に1台の端末と高速ネットワーク整備がはじまる  
 (\*GIGA=Global and Innovation Gateway for All)  
 コロナ禍の最中 (2020～21年)  
 GIGAスクール構想の遅れが顕在化 ⇒ 前倒して実施を進める  
 2021年3月現在で**96.1%の自治体で整備済み**  
 \* 仙台大学でもiPad貸与 ⇒ BYODの実施

**典型例とその留意点**  
 撮影・フィードバックの何が課題か (\*私見を多く含みます)  
 ① 運動・スポーツは目にみえるものが全てか？  
 運動にはコツやカンと呼ばれる重要な要素がある  
 また新しい運動を行う場合体の中では様々な反応が起こる  
 現象として現れた運動と自分の中の感覚が合致していないこともある  
**運動には目に見えない(現象として発現しない)要素がある**  
 映像を見てゲームを分析したり、プレーを振り返ることは重要であるが、それは教師が意図的に学習を仕掛けないと児童・生徒が誤解をもちかねないのではないかな？ (\*大学生も同じでは？)


**ICTの活用**  
 文部科学省 (2021年3月)  
 「GIGAスクール構想下で整備された1人1台端末の積極的な活用等について」  
**積極的な使用を呼びかける**  
 ●情報モラルの充実 ●健康への留意 ●保護者・地域の理解  
 ●管理運用場のルール明確化 ●クラウド利用  
 実際、どう使用すればいいの？  
 スポーツ庁 (online)  
 「児童生徒の1人1台の端末を活用した体育・保健体育授業の事例集」  
 ICTの活用が希求される背景を解説するとともに、先進的な事例を紹介する

**典型例とその留意点**  
 撮影・フィードバックの何が課題か (\*私見を多く含みます)  
 ② 動画を撮影することは本当に教育に貢献するのかな？  
 SNSにまつわる問題・・・  
 「××さんと遊んだ時はインスタにあげるのに、私と遊んだ時はあげないんだね」  
 → 誰かに見られている気がするからSNSをあげなきゃいけない感覚 (Z世代の感覚)  
 ICTの発展はふんわりとした/ゆるい**相互監視的社会**を到来させた？  
 (M.フーコーのいう「パノプティコン」やG.オーウェルの『1984』のような雰囲気は私を苦しめる)  
 体育の授業で「仲間のプレーを撮影しよう！」  
 → 人によっては「見られているからやるか」「みんなやってるし・・・」  
 主体性なき受動的な取り組み ⇒ これは教育の貢献するのかな？

**ICTの活用**  
 典型的な活用例 (スポーツ庁, online) (n=7552)  
 活用されている種目  
 第1位: 器械運動 (77.9%) 第2位: ダンス (66.6%) 第3位: 陸上競技 (59.6%)  
 活用の仕方  
 第1位: 見本動画・プレゼン視聴 (88.0%) 第2位: 課題入力 (33.4%)  
 使用される端末  
 第1位: タブレット端末 (66.6%) 第2位: ノートPC (39.3%)  
 表現 (審美) 系の種目において、見本を見たり・仲間の活動を見たりする  
 技能向上を目的とした使われ方をしている (双方向性は乏しい)  
 持ち運びが簡単なタブレット端末が多く使用されている

**【パノプティコン】**  
 全羅望監視システムのごと  
 イギリスの哲学者ジェレミー・ベンサムが第サミュエルに示唆を受け設計した刑務所およびその他施設の構想。  
 その後、哲学者のミシェル・フーコーが『監視の誕生 監視と処罰』で、それを転用して、社会のシステムとして管理、統制された権力の比喩として用いた。  
**【1984】**  
 イギリスの作家ジョージ・オーウェルのディストピアSF小説。全体主義国家によって分割統治された近未来世界の恐怖を描いている。小説の中で、市民は常に「テレスクリーン」と呼ばれる双方向テレビジョン、さらには即座に仕掛けられたマイクによって屋内・屋外を問わず、ほぼすべての行動が当局(ビッグ・ブラザー)によって監視されている。  


**ICTの活用**  
 事例集上における記述 (抜粋)  
 「体育においては前述のように技能向上を目的とした活用が多く、特にクラウドスキルが求められる領域において多く取り組まれていた。**目的の動きを映像でフィードバックする**などの活用は、手持ちのスマートフォンでも行うことができ、操作も簡単である。コマ送りやスロー再生などでもできるアプリケーションソフトも普及している。」  
 「今後、こうした技能向上に効果のある活用はもとより、様々な資質・能力の向上に対応した端末の使用方法についての研究が求められる。」  
 ▶ 自分や仲間の活動(プレー、ゲームなど)を撮影して、それをフィードバックする活動は、現場におけるICT利用の典型例として挙げられる  
 ▶ 仙台大における各授業でも同様の方法で活用されていることが予想される

**典型例とその留意点**  
 撮影・フィードバックの何が課題か (\*私見を多く含みます)  
 これら2点については私は疑問を感じている  
 真に効果的なICTの活用手法の検討・・・Good Practicesの蓄積  
 ICTと教育の親和性(?) について・・・エビデンスの蓄積が必須  
 事例集でも・・・  
 「今後、こうした技能向上に効果のある活用はもとより、様々な資質・能力の向上に対応した**端末の使用方法についての研究**が求められる。」  
 ただし、エビデンスの蓄積が乏しい段階で「事例集」として公開したこと  
 様々な機関が方法論先行で、ある種の実験的に教育に際し込んでいること  


**典型例とその留意点**  
 撮影・フィードバックの何が課題か (\*私見を多く含みます)  
 プレー/ゲームの撮影・フィードバック  
 出来栄を確認する  
 成功した(失敗した)要因を考える・話し合う  
 いつでも振り返ることができる(過去と見比べられる)  
 これらは非常に効果的なツールになる  
 (実際・・・) 私自身は柔道日本代表のアナリスト  
 試合を撮影・分析・フィードバックしてきた  
 有効性は感覚的にも理解できる

**本日のまとめ**  
**ICTの活用**  
 特に**撮影・フィードバックすることは効果的な手法**であろう  
 ただし・・・  
 運動が目に見えるものだけで構成されていないこと  
 相互監視的な授業になりかねない危険を孕んでいること  
 上記の2点についてはよく検討・留意しながら取り組む必要があるのではないかな・・・という考え方もある (\*私見ですが)。

# 報告 REPORT

## 令和5年度 学生参加型 FD 研修会について 「学生の個人情報端末を利用した学修への効果と課題とは」



日 時：12月12日（火）14：30～15：50

会 場：LC 棟1階

テ ー マ：「学生の個人情報端末を利用した学修への効果と課題とは」

出 席 者：＜FD 委員＞平良委員長、金委員、林委員、白幡委員、朴澤教育企画部長、後藤委員、田上委員

＜新任教員＞遠藤先生、小石先生、山口先生

＜協力学生＞鈴木結貴さん（体育3年）、森山雄翔さん（体育2年）

岸本唯佳さん（健康福祉3年）、千葉 南さん（健康福祉2年）

吉田篤郎さん（スポーツ栄養3年）

大立目彩佳さん（スポーツ情報マスメディア2年）

阿部遥斗さん（現代武道4年）、峰 大樹さん（現代武道3年）

佐藤和樹さん（子ども運動教育3年）、田中千乃さん（子ども運動教育3年）

内 容：

- (1) 開会式：14：30～14：40  
挨拶・研修会の進め方についての説明
- (2) グループ討議：14：40～15：20  
グループセッションに分かれて討議
- (3) 全体会：15：20～15：50  
グループ発表、意見交換・講評

グループ	教 員	体 育	健康福祉	スポ栄	スポ情	現代武道	子ども
A	平良拓也 遠藤教昭	鈴木結貴	千葉 南		大立目彩佳	峰 大樹	
B	金一坤 小石俊聡 白幡真紀	森山雄翔				阿部遥斗	田中千乃
C	林直樹 朴澤憲治 山口恭正		岸本唯佳	吉田篤郎			佐藤和樹





## 令和 5 年度 学修調査の概要報告

### 【目的】

・本調査の目的は、学生に対する支援と指導のため、日常の学生の学修状況についての基礎的な資料を得ることである。

### 【方法】

1. 調査対象
  - ・体育学部に所属する全学生を対象として調査を実施した。
2. 調査内容
  - ・「学生の学修状況に関する調査」というアンケートを Google フォームにて作成し、調査に使用した。
  - ・質問内容は以下の通りである。：
    - ① 基礎的情報： 性別、学年、学科
    - ② 授業時間以外での自主的な学習時間（1日あたりの平均）
    - ③ 授業時間以外での運動やスポーツ活動の時間（1日あたりの平均）
    - ④ 大学での学習で最も力を入れていること
    - ⑤ 高校3年時での授業時間以外での自主的な学習時間（1日あたりの平均）
    - ⑥ 高校3年時での授業時間以外での運動やスポーツ活動の時間（1日あたりの平均）
    - ⑦ 卒業後の進路として最も希望していること
3. 調査の手続き
  - ・調査期間は令和5年6月7日（水）～7月12日（水）である。
  - ・1年生は各クラスの、2年生以上は学科又はコースのオリエンテーションで使用した Google クラブルーム内で、「課題」として Google フォームの URL を配布、期日までの回答を依頼した。
4. 統計解析
  - ・得られた結果は各学年及び学科に占める割合（%）で示した。
  - ・各学年、学科および性別と質問項目をクロス集計し、 $\chi^2$ 検定を行った。有意水準は5%とした。 $\chi^2$ 検定で有意差がみられた項目についてはさらに残差分析を行い、どのセルに有意差がみられたかを明らかにした。

### 【結果】

#### 1. 回答率について

- ・学科学年別の回答者数と回答率を表1と表2に示した。全体での回答率は73.6%となった。
- ・学年のその他は本調査においては4年としている。

学科	1年	2年	3年	4年	その他	全体
体育	290	277	301	173		1041
健福	104	80	50	74	1	309
栄養	74	45	56	44		219
ス情	26	28	17	21		92
現武	59	29	28	22	1	139
子教	35	23	25	11		94
全体	588	482	477	345	2	1894

表 1. 学科学年別回答者数（人）

学科	1年	2年	3年	4年	全体
体育	87.1%	82.4%	82.2%	49.7%	75.3%
健福	99.0%	80.0%	70.4%	68.5%	80.2%
栄養	88.1%	69.2%	78.9%	57.9%	74.0%
ス情	68.4%	50.0%	50.0%	45.7%	52.9%
現武	93.7%	60.4%	70.0%	41.5%	67.6%
子教	97.2%	82.1%	86.2%	28.9%	71.8%
全体	89.2%	76.1%	78.1%	51.6%	73.6%

表 2. 学科学年別回答率（休学者を含む）

#### 2. 概要まとめ

- ・本アンケート調査は回答率が約73%と去年の約90%以上と比べると低くなったが、十分に本学学生の状況を反映しているものと考えられる。
- ・全体を学年中心にみたとき、昨年と同様に学年が上がるにつれて、学習時間の増加および運動時間の減少がみられた。大学での学習目標については資格や免許の取得を目標とする割合は1年がもっとも高く、年次が上がるにつれて低下している。年次が上がるほど専門的知識技術や幅広い教養にシフトしていく傾向がみられた。卒業後の進路希望については1年生でスポーツ関連は高いが4年生はその割合が低くなっている。また、教員または保育士は1年生の割合は高いが年次が上がるにつれて低下している。その低下の割合に比例するように一般企業希望の割合は年次が上がるにつれて高くなる。
- ・全体を学科中心にみたとき、学習時間は健康福祉学科、スポーツ情報学科、スポーツ栄養学科の学生が比較的多くの時間を確保している傾向がみられた。運動時間は体育学科、現代武道学科の学生が比較的多くの時間を確保している。これらは学科の特徴を表していると思われる。大学での学習目標は免許・資格の割合がスポーツ栄養学科や子ども運動教育学科で高く、免許・資格取得が前提の学科の特徴を表していると示唆される。進路希望についてはスポーツ栄養学科の学生の4割ほどが栄養士を希望している、体育学科はスポーツ関連を希望しているなど学科の特色が出ている結果がみられた。また公務員、教員または保育士は学科を問わず一定の希望者がいることが明らかとなった。

## SUFD Report2023 令和 5 年度仙台大学 FD 年次活動報告

編 集：仙台大学 教育企画部 教育改善企画運営委員会

委員長：平良拓也

委 員：白幡真紀 後藤満枝 林 直樹 田口直樹 佐藤周平 金 一坤 加畑 碧 賞雅さや子

発 行：仙台大学

〒989-1693 宮城県柴田郡柴田町船岡南2丁目2番18号 電話：0224-55-1121（代表）

制作・DTP：株式会社仙台紙工印刷

発行年月日：2024年3月31日